



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2023年07月31日 第1128号「週刊五十嵐レポート」

人手不足と最低賃金

7月29日付日経、朝日ら、新聞は、「最低賃金1000円以上」という記事。

2023年度に全国平均で時給1002円と決まり、首都圏、関西圏を中心に8都府県で実額1000円以上になる見通し。

最低賃金を決める際、1. 労働者の生計費 2. 一般的な賃金水準 3. 企業の支払い能力 という3要素を考慮すると定められている。

深刻な人手不足への対応で企業が従業員の待遇改善に動き、地方の中小企業にも賃上げの機運が高まり、中小の賃上げ率は約30年ぶりの水準に。ある地方の中小の食品製造業は、初任給を引き上げ、基本給を底上げするベースアップに踏み切った。狙いは人材採用市場での競争力向上のため。

最低賃金時給1000円越えしても、海外に比べて見劣りする。日本総合研究所によると、23年6月時点でドイツ1749円、フランス1679円、米カルフォルニア州2091円。外国人の技能実習生は最低賃金近くで働いている場合が多い。外国人労働者の獲得競争でも不利になる。コストコホールセールジャパンは時給1500円を掲げ、人材獲得で優位に立とうとしている。

財務省の法人企業統計調査によると、売上高経常利益率(22年10~12月)は、資本金10億円以上の大企業は8.1%、1億~10億の中堅企業は4.9%、1000万~1億円の中小企業は4.3%。1000万円未満の中小零細企業の情報はないが、4.3%以下と推測する。小さな会社ほど、売上高経常利益率は悪い傾向にある。(但し、資本金の大小で利益性の善し悪しは決まらない)

人手不足が深刻になった昨今、低賃金の労働力に頼った経営は成り立たない。さらなる賃金上昇を想定し(最低賃金2000円~3000円)、生産性を高める努力が重要になる。実は中小零細企業は無駄の宝庫。トヨタの言葉を借りれば、「濡れた雑巾」。絞れはいくらでも出る。その分、すぐに生産性は高まる。今まで当たり前に行っていた作業が無駄だったり(工夫すれば時短になったり)、ITを使えば瞬時に終わる作業もある。また、中にはすぐ処理せず、後回しする社長がいる。そういう人は仕事が溜まり、仕事が遅い。見えないロスが流れている。それが生産性を低くしていることに気づいていない。

ちょっと
気になる出来事

7月26日付日経新聞、「地域発世界へ」はタカノレムノス社(富山県高岡市)。同社はデザイン性の高さを強みに海外展開を進めている。2022~23年には世界的なデザイン賞を受賞し、アジアでも販売が伸びている。

欧米ではデザイン性の高い時計が売れている。同社の売れ筋の1位はカコー時計、海外では国内価格の5割~7割増し。発祥は仏具製造の高田製作所の時計事業部が分離独立したもの。仏具で培った鋳造や研磨の技術が、時計の金属部品などの美しい加工に繋がっている。

海外展開を模索し始めたのは2000年代。人口減少による国内市場の縮小がきっかけ。まずターゲットに据えたのは欧米。時計の実用性だけでなく、空間との調和などデザイン性も含めて評価する土壤があることに商機を見出した。23年6月期の売上高は約8億円、うち海外比率は15%程度。

帝国データバンクの会社年鑑によると、21年6月期売上794、純利益47(百万円)従業員数31名。1人当りの売上高25.6百万円、1人当り純利益1.5百万円。黒字の中小企業の1人当り純利益は52万円。およそ3倍の収益力。強みのある企業の収益力は違う!



一口メモ
知識

分相応

君子もって思うことその位を出です。(艮為山・ごんいさん)

君子は自分の思いが分限や器量(位)に止まり、力量以上のことをいたずらに欲しない。

そういう姿勢に徹すれば、自然に「これは自分らしくない」と、本来の自分に相応(ふさわ)しいところに思い止まることができる。

艮為山(ごんいさん)は止まる時に説く卦(か)。分相応であることの大切さを教えている。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

